

# 新館長より ごあいさつ

あこしま かおる

令和3年4月1日、阿子島香館長が就任しました。  
このたびの館長就任にあたり、自身のこれまでの研究や館長としての思いを、来館者の皆様にお伝えします。



## 世界各地の遺跡・遺物を比較する先史考古学

あこしま かおる

館長の阿子島香です。3月までは東北大学文学部・文学研究科 考古学研究室で教授を務めておりました。

専門は石器時代で、石器がどのように使われたのか、実験や顕微鏡を使った観察によって明らかにする「使用痕分析」に長年取り組んできました。

研究分野は、「比較文化的な先史考古学」です。世界各地の遺跡・遺物を、人間の生活・文化全体を視野に入れながら比較し、研究しています。

## 中学生の頃の体験から考古学の道へ

宮城県白石市で生まれ育ち、郷土史家であった父親の影響で、中学生の頃から土器や石器を拾い集めていました。この勉強を深めるために東北大学に入学し、旧石器時代の世界的権威であった芹沢長介先生に師事しました。芹沢先生からは、遺跡の発掘、現場の重要さ、大切さを学びました。

## 世界各地が研究フィールド

修士号を取得した後はアメリカに留学し、文化人類学に興味を持ち、アメリカの人類学的考古学の第一人者であるルイス・ビンフォードに師事しました。アメリカには3度渡り、計5年滞在しましたが、そこでの経験が現在の私の基礎になっています。

そのほか、フランス・アメリカでの発掘調査や資料分析、ロシア・中国など海外の研究者との学術交流にも取り組みました。近年の調査では、韓国のスヤンゲ遺跡について、現地の研究者と共同研究を行いました。

## 温故知新 — 故きを温ねて新しきを知る

当館には設立時から掲げている使命があります。それらをふまえて、どのような博物館を目指すべきか、二つの目標を考えました。

一つ目は、「おもしろく 楽しくそしてためになる博物館」。私の座右の銘は「温故知新」です。それぞれの好奇心を大切に、歴史を正確に学び、そこから新たな知識を見いだせる場所にしたいと思っています。

二つ目は、「郷土から 地球が見える 博物館」。ふるさとの歴史はすべて世界の歴史の一部である、ということをお忘れずに、活動していきたいと思っています。

来館者の皆様には、それぞれのお好きなテーマで、思う存分博物館を楽しんでいただきたく思います。

### 略歴

東北大学文学部考古学専攻卒業、東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了、同博士後期課程中退、米国ニューメキシコ大学大学院人類学研究科博士課程修了(Ph.D.)。東北大学助手、専任講師、助教授を経て、1998年より教授。平成25年度から令和2年度まで、当館資料収集専門部会委員。



東北歴史博物館

TOHOKU HISTORY MUSEUM